

## 第4次農林水産業元気創造戦略 令和5年度の主な取組み

### テーマ① スマート農林水産業について

スマート農業普及加速プロジェクト(PJ9)	農業技術環境課	・・・1
水田農業の低コスト化に向けた基盤整備促進プロジェクト(PJ12)	農村整備課	・・・2
やまがた方式次世代施設園芸推進プロジェクト(PJ32)	園芸大国推進課	・・・3
県産木材安定供給推進プロジェクト(PJ52)	森林ノミクス推進課	・・・4
海面漁業の成長産業化に向けた経営基盤強化プロジェクト(PJ60)	水産振興課	・・・5

### テーマ② 農林水産物の販路・消費拡大について

山形さくらんぼ世界一ブランド強化プロジェクト(PJ23)	園芸大国推進課	・・・6
やまがたのミルク生産・消費拡大プロジェクト(PJ35)	畜産振興課	・・・7
販売チャネルの多角化による需要開拓・販路拡大プロジェクト(PJ40)	県産米・農産物ブランド推進課	・・・8
県産農産物等輸出拡大プロジェクト(PJ49)	県産米・農産物ブランド推進課	・・・9
県産木材利用推進プロジェクト(PJ57)	森林ノミクス推進課	・・・10
県産水産物の利用拡大プロジェクト(PJ62)	水産振興課	・・・11

【基本戦略1 意欲ある多様な担い手の育成・確保】 2 担い手・経営体育成 ～社会情勢の変化に対応した、地域農業をけん引し、支えていく意欲ある多様な担い手・経営体の育成～

## スマート農業普及加速プロジェクト(PJ9)

### 【プロジェクト目標】

目標指標	スマート農業の取組み件数(累計)				
	現状値	R3	R4	R5	R6
指標値	77件	105件	120件	135件	150件
実績値	(R1年度)	112件	134件	-	-
直近の達成度	達成				

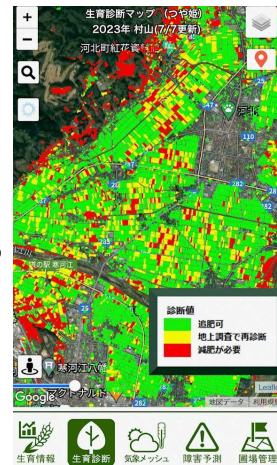
### 【令和5年度のこれまでの取組み】

- 衛星リモートセンシング生育診断実施地域の拡大  
R3:庄内地域→R4:庄内地域+村山地域→R5:庄内、村山地域+置賜地域で運用
- 高精度位置補正による自動飛行ドローン、自動操舵トラクターを用いた水稲作業の省力化実証(除草剤散布、秋耕:東根市)
- 環境モニタリングデータの共有及び活用としてやまがたアグリネットと気象センサーデータを組み合わせた凍霜害の注意喚起情報を「低温アラート」として生産者に提供(4/1～5/15)
- 各総合支庁産地研究室においてロボット草刈り機の実証をしながら、常設展示を行い体験できる環境を整備



自走式ロボット草刈り機

衛星リモートセンシングによる水稲生育管理 (Agrilook モバイル版)



### 【評価と課題】

- 現場では、徐々にスマート農業への理解が進み、自動操舵トラクターの活用をはじめ、スマート農業機器の導入が増加
- 県内各地でICTを活用した新技術の実証等を行い、普及に向けた現状での課題(収益性の向上や人材の育成など)を明らかにした
- スマート農業を普及加速させるため、技術の開発や実証のほか展示を行い、機器に触れる機会を増やし、体験してもらうことが必要
- スマート農業を理解し、技術・機器やサービスを活用できる「人材の育成」が急務



自動操舵によるトラクター作業

### 【今後の取組み】

<令和5年度>

- 環境モニタリング機器及びデータの精度検証、年次変動評価
- 黒星病(りんご)、輪紋病(西洋なし)発生予測システムの精度検証
- 観測データを活用した栽培検討会の開催

<令和6年度>

- 衛星リモートセンシング生育診断実施地域の拡大  
R6:最上地域での正式運用(全县での運用開始)
- 高精度位置補正による自動飛行ドローン、自動操舵トラクターを用いた水稲作業の省力化実証(除草剤散布、秋耕:村山市)
- 野菜栽培ハウスの環境モニタリングデータの共有及び活用
- 公開講座「スマート農林業」の開催(人材育成:農林大学校)

【基本戦略2 活気あるしなやかな農村の創造】 3 基盤強化・強靱化 ～次世代の担い手が活躍できる生産基盤の強化と大規模災害等にも対応できる強靱な生産基盤の形成～

## 水田農業の低コスト化に向けた基盤整備促進プロジェクト(PJ12)

### 【プロジェクト目標】

目標指標	農地整備実施地区の大区画整備面積(累計)				
	現状値	R3	R4	R5	R6
指標値	3,560ha (H30年度)	4,130ha	4,320ha	4,510ha	4,700ha
実績値		4,108ha	4,287ha	-	-
直近の達成度 : 概ね達成					

目標指標	基盤整備を実施した農地での担い手に集約化される割合(累計)				
	現状値	R3	R4	R5	R6
指標値	41% (H30年度)	84%	86%	88%	90%
実績値		83.7%	84.0%	-	-
直近の達成度 : 概ね達成					

### 【令和5年度のこれまでの取組み】

- 低コスト・省力化に向けた基盤整備
  - ・新規採択5地区、継続51地区の計56地区において農地の大区画化や用排水路のパイプライン化などの基盤整備を実施
  - ・基盤整備と併せて、1地区において自動給水栓20台を設置
  - ・県内5地区で自動給水栓13台を設置して実証事業を行い、水管理作業の省力効果を検証しながら、自動給水栓の導入推進を図る
- 担い手への農地の集約化の促進
  - ・農地整備事業実施地区における農地集積・集約化の達成状況を確認し、おおむね順調に推移していることを確認
  - ・農地中間管理事業のモデル地区及び重点実施地区を4月に指定し、農地整備事業との連携を推進

### 【評価と課題】

- 令和5年度は56地区において、農地の大区画化などの整備を実施し、大区画整備面積は概ね順調に拡大している。
- 自動走行農機の作業に配慮した農地整備や自動給水栓の設置など、スマート農業に対応した基盤整備を進めた結果、1地区において自動給水栓(20台)を設置予定となっている。
- 担い手に集約化される割合は、令和5年度に事業完了を予定している4地区のうち、2地区で目標を達成している。また、残り2地区については、それぞれの目標年度までに達成する見込みとなっている。

### 【今後の取組み】

- <令和5年度>
  - 引き続き令和5年度に予定されている農地の大区画化や用排水路のパイプライン化などの基盤整備を推進する。
  - 県内5地区で行った自動給水栓の実証事業地区の状況を整理し、県内におけるスマート農業導入推進につなげていく。
- <令和6年度の方向性>
  - 農地の大区画化や用排水路のパイプライン化等による低コスト・省力化など、担い手が効率的に営農できる基盤整備と、農地の集約化を促進する。
  - 農地の大区画化等と併せて自動給水栓の設置や農業機械の自動走行に配慮したターン農道の設置など、スマート農業導入に対応した基盤整備を推進する。



大区画ほ場の状況(大蔵村)



自動給水栓の実証(南陽市)

## 【基本戦略3 魅力ある稼げる農林水産業の追求】 8 野菜・花き ～次世代型施設園芸の導入と水田フル活用による野菜・花き産地の拡大～

### やまがた方式次世代施設園芸推進プロジェクト(PJ32)

#### 【プロジェクト目標】

目標指標	やまがた方式次世代施設園芸導入組織の数 (ICT機器等を導入・活用している組織の数)				
	現状値	R3	R4	R5	R6
指標値	4か所	5か所	6か所	7か所	8か所
実績値	(R2年度)	5か所	6か所	-	-
直近の達成度 : 達成					

#### 【令和5年度のこれまでの取り組み】

##### ○トマト

- ◆パイプハウスに導入可能な費用対効果の高い環境制御技術の実証
  - ・ミスト噴霧によるハウス内昇温抑制、飽差制御の検証(試験研究・現地実証)
  - ・日射比例型灌水同時施肥による生産性向上等の検証(試験研究)

##### ◆若手・担い手のネットワーク化

- ・最上地域の実証圃を活用した「若手・担い手研修会」の開催(7/20)

##### ○きゅうり

- ◆環境モニタリングデータの共有による栽培管理改善・栽培技術早期習得
  - ・専門のコンサルティング機関の担当者を講師に、環境データ活用方法や栽培管理に関する研修会を開催(6/8～9、8/9～10、10/18～19)
  - ・先進地(群馬県)の指導者を講師に、データ共有による生産者主体の勉強会の運営方法等に関する研修会を開催(5/18)
  - ・環境モニタリングデータを活用した高温対策技術の実証(村山、庄内)



○環境モニタリング機器  
(温湿度、CO<sub>2</sub>濃度計測)



○「トマト若手担い手研修会」  
(大蔵村・ミスト噴霧実証圃)



○専門のコンサルティング  
機関による研修会  
(鶴岡市・きゅうり団地)

#### 【評価と課題】

##### ○トマト

- ◆パイプハウスに導入可能な費用対効果の高い環境制御技術の実証
  - ・環境制御技術による増収効果が見込まれたことから、産地への導入に向け、データの蓄積と費用対効果や現地適応性の検討が必要である

##### ◆若手・担い手のネットワーク化

- ・「若手・担い手研修会」の対面開催によって、地域を超えた生産者の交流が図られており、ネットワーク化に向けて継続的な支援が必要である

##### ○きゅうり

- ◆環境モニタリングデータの共有による栽培管理改善・栽培技術早期習得
  - ・環境モニタリングの有用性が示された一方で、先行する村山、庄内地域においてもデータの共有は一部に留まっており、データの共有による生産者主体の勉強会の開催に向けて支援が必要である

#### 【今後の取り組み】

##### <令和5年度>

##### ○トマト

- ・生産者間の交流促進や技術の習得を目的とした「若手・担い手研修会」の開催(12月中旬)

##### ○きゅうり

- ・生産者を対象とした県外先進事例視察研修の開催(11/16)
- ・データ共有のメリットやこれまでの成果をまとめた取組事例集の作成

##### <令和6年度の方向性>

##### ○トマト

- ◆パイプハウスに導入可能な費用対効果の高い環境制御技術の実証
  - ・ミスト噴霧、日射比例型灌水同時施肥の費用対効果や現地適応性の検討(試験研究・現地実証)(継続)

##### ◆若手・担い手のネットワーク化

- ・担い手間のネットワーク構築のための「若手・担い手研修会」の開催(継続)

##### ○きゅうり

- ◆環境モニタリングデータの共有による栽培管理改善・栽培技術早期習得
  - ・データ共有による生産者主体の勉強会の開催支援(村山、庄内)
  - ・県内他地域における環境モニタリングモデル実証圃の設置(最上、置賜)
  - ・取組事例集の活用による県内他地域への取組みの波及

【基本戦略4 「やまがた森林ノミクス」の加速化】 13 県産木材の安定供給・森林の多面的機能の発揮 ～スマート林業の導入による生産性・収益性の高い林業の展開と森林の管理・保全による多面的機能の発揮～

## 県産木材安定供給推進プロジェクト(PJ52)

### 【プロジェクト目標】

目標指標 : 林業労働生産性					
	現状値	R3	R4	R5	R6
指標値	6.0m <sup>3</sup> /人日 (H30年度)	6.6 m <sup>3</sup> /人日	7.0 m <sup>3</sup> /人日	7.4 m <sup>3</sup> /人日	7.8 m <sup>3</sup> /人日
実績値		6.9 m <sup>3</sup> /人日	7.0 m <sup>3</sup> /人日		
直近の達成度 : 達成					

### 【令和5年度のこれまでの取組み】

- 航空レーザ測量の継続実施と活用促進
  - ・県と庄内地域・最上地域の市町村(鶴岡市、酒田市、遊佐町、新庄市、舟形町、真室川町、鮭川村、戸沢村)、東北森林管理局が共同し、航空レーザ測量による高精度な森林・地形情報(デジタルデータ)を取得
- スマート林業推進協議会によるモデル実践
  - ・リモコン式刈払い機による下刈り作業など、真室川町内のモデル団地等においてスマート林業を実践(8/3、現地検討会開催)
- 研究普及分野でのスマート林業の導入
  - ・森林研究研修センターにドローン(マルチコプター)などの機材を導入するとともに、先導的な技術・手法の習得に向けて、国の研究機関に職員を長期間派遣(6～8月)
- 高性能林業機械の導入支援
  - ・木材の生産性向上や作業の省力化のための高性能林業機械の導入を支援(5台)

### 【評価と課題】

- 航空レーザ測量成果の有効活用
  - ・高度な森林・地形情報データ(デジタルデータ)を林業経営の適地判定や効率的な路網配置計画に活用していく手法の確立と、市町村・林業事業体等への普及が必要
- スマート林業による労働生産性の向上
  - ・モデル団地で実践しているリモコン式刈払い機など、先端技術を活用した生産手法の現場実装に向けた新たな森林整備手法等の検討が必要

### 【今後の取組み】

- <令和5年度>
  - モデル団地での実践事業の評価・検証と次年度の取組内容の検討。
  - 森林・地形情報(デジタルデータ)の活用手法の検討。
- <令和6年度の方向性>
  - 高精度な森林・地形情報の取得
  - 森林調査や森林整備への森林・地形情報(デジタルデータ)の活用手法を確立
  - リモートセンシング技術や先端機械等を活用したスマート林業の現場実装に向けたモデル団地での実践を継続
  - 木材の生産性向上や作業の省力化のための高性能林業機械の導入を支援



スマート林業研修会  
(リモコン式刈払い機)



ドローンを使った森林調査



パソコン上での3D表示

【基本戦略5 水産業の成長産業化】 16 海面漁業 ～海面漁業の新規就業者の育成・確保とスマート漁業導入や

付加価値向上に向けた技術の推進による海面漁業の成長産業化～

海面漁業の成長産業化に向けた経営基盤強化プロジェクト(PJ60)

【プロジェクト目標】

目標指標 : ブランド魚種の平均単価					
	現状値	R3	R4	R5	R6
指標値	2,529円/kg (H30年)	2,877 円/kg	3,051 円/kg	3,225 円/kg	3,400 円/kg
実績値		3,099 円/kg	2,965 円/kg	-	-
直近の達成度 : 概ね達成					

【令和5年度のこれまでの取組み】

- 担い手の確保・育成及び経営の安定化
  - ・令和5年に12名が新規に漁業に就業
  - ・山形県の漁業経営スタイル紹介冊子とPR動画を活用したPRを実施(動画再生回数 11.6万回)
  - ・国と県の漁業研修制度により、令和5年度3名の漁業研修を実施
  - ・新規独立漁業者に対して、所得補償を実施(令和5年実績5名)
- スマート漁業の推進
  - ・沖合からの海況情報等のデータをリアルタイム情報発信(大和堆)
  - ・天然礁の海底地形図の作成による操業の効率化を推進
- 県産水産物の付加価値向上
  - ・ブランド魚種のキャンペーンを企画・実施(サワラ、ズワイガニ、トラフグ)
  - ・令和5年度第1回ブランド化検討部会(5/12)、8/8イカ釣り部会設立
  - ・活イカ等の活魚流通とブランド化に向けて、県内3カ所の産地市場に簡易蓄養システムを導入
- 付加価値の高い水産加工品の生産拡大
  - ・おいしい魚加工支援ラボによる低利用魚・未利用魚を使用した加工品の開発(ゲンゲ類の魚醬、ハツメ魚粉の試作)
  - ・「庄内浜おいしいお魚ガイド」及び「庄内浜鮮度保持技術ガイド」の公表(6月)

【評価と課題】

- ・海底地形図は一部の天然礁に限られるため、更なる漁業の効率化に向けて、新規漁業就業者でも使いやすい山形県海域の漁場を網羅した海底地形図が必要
- ・漁業者が取り組む加工品開発や事業展開を引き続き支援

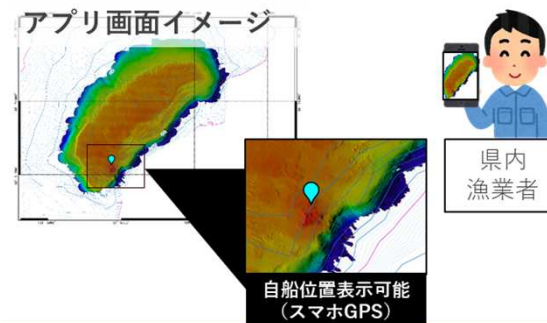
【今後の取組み】

＜令和5年度＞

- 飲食店での活イカ利用を支援
- 漁業者が取り組む加工品開発や事業展開を引き続き支援

＜令和6年度の方向性＞

- ターゲットを絞った情報発信ときめ細かな担い手支援体制の強化
- 操業の効率化を図るためリアルタイムの情報発信及び新規漁業者にも使いやすく、漁場形成の基礎情報となる海底地形図を整備
- 庄内浜ブランド創出協議会によるブランド化の支援(スルメイカ、サワラ、ズワイガニ、トラフグ)
- おいしい魚加工支援ラボを活用し、漁業者等による水産加工品の開発・改良を支援
- 流過程における鮮度保持技術の開発



## 【基本戦略3 魅力ある稼げる農林水産業の追求】 7 果樹 ～「やまがた紅王」のブランド化をはじめとした収益性の高い果樹産地づくりの推進～

### 山形さくらんぼ世界一ブランド強化プロジェクト(PJ23)

#### 【プロジェクト目標】

目標指標	さくらんぼ産出額				
	現状値	R3	R4	R5	R6
指標値	351億円	353億円	355億円	357億円	360億円
実績値	(H26～30年平均)	319億円	-	-	-
直近の達成度 : 遅れ・未達成					

#### 【令和5年度のこれまでの取組み】

- オール山形による生産力・ブランド力の強化
  - ・山形さくらんぼブランド力強化推進協議会を開催(4/25、9/19)
  - ・山形さくらんぼキックオフイベントを開催(6/6:最上川ふるさと総合公園)
  - ・さくらんぼトップセールスを実施(6/9:東京、6/10:大阪)
- 「やまがた紅王」の本格デビュー(果実出荷2年目)
  - ・「やまがた紅王」ブランド化プロジェクト会議を開催(4/25)
  - ・「やまがた紅王通信」の発行(計4回)
  - ・大玉栽培講座を開催(3/10、5/11:園芸農業研究所) (トップセールス:大田市場)
  - ・出荷説明会を開催(6/8:天童市)
  - ・第1回「やまがた紅王」大玉コンテストを開催(6/23:最上川ふるさと総合公園、9/19:表彰式)
- 高品質安定生産と厳選出荷の推進
  - ・凍霜害防止キャラバン(3/28～4月下旬:天童市成生ほか)
  - ・結実確保キャラバン(4/13～4月下旬:山形市黒沢ほか)
  - ・「いいもの成らせるさくらんぼ便り」(計7回)、  
「もがみさくらんぼ通信」、「庄内さくらんぼ通信」を発行
- 出荷規格を順守した高品質果実の販売
  - ・出荷規格ポスター、チラシを配布
  - ・出荷規格順守のための巡回活動を実施(6/1～:青果市場、産直等)



出荷規格啓発ポスター

#### 【評価と課題】

- 令和5年産さくらんぼ収穫量は平年並の13,300トン(県調査、見込み)
  - ・凍霜害の影響で結実が少ない地域もあったが、県全体では平年並の結実が確保された園地が多かった。
  - ・出荷期間を通して果実品質へのクレームは少なかった。
  - ・収穫期前半には着色遅延と強風被害のため、一部で着色不良の果実が流通した。
  - ・生産現場では労働力不足と気象変動への対応が急務となっている。
- 「やまがた紅王」の収穫量は23トン(県推定、昨年の約4倍)
  - ・先行販売よりも流通量が増加し、3L(28mm)以上の大玉率が10%向上した。
  - ・生産者による出荷量と果実品質のばらつきが大きい。
  - ・大消費地での認知度向上が必要である。

#### 【今後の取組み】

- <令和5年度>
  - 第2回「やまがた紅王」ブランド化プロジェクト会議の開催(11月下旬)
  - 「やまがた紅王」栽培マニュアルの更新、追加
  - 令和6年度の「やまがた紅王」生産者登録の申請募集
- <令和6年度>
  - 山形さくらんぼのブランドを支える高品質安定生産の推進
    - ・適期作業を呼びかける広報キャラバンの実施とタイムリーな情報提供
  - 出荷規格の順守と品質を重視した厳選出荷の徹底
  - 軽労化仕立てや「佐藤錦」からの改植等による生産基盤強化
  - 地域の特色を活かした新興産地での産地形成(庄内・最上)
  - 「やまがた紅王」のブランド確立
    - ・生産対策:栽培研修会開催等による出荷量増と高品質大玉生産の推進
    - ・流通・販売対策:ギフト用パッケージの普及とPR活動の実施
  - 「やまがた紅王」の商標やロゴマーク等の有効活用と適正管理



【基本戦略3 魅力ある稼げる農林水産業の追求】 9 畜産 ～山形生まれ山形育ちの畜産物の生産拡大と  
安全・安心な生産・供給体制の構築によるブランド力の向上～

## やまがたのミルク生産・消費拡大プロジェクト(PJ35)

### 【プロジェクト目標】

目標指標	： 経産牛1頭当たりの生乳生産量				
	現状値	R3	R4	R5	R6
指標値	7,578kg	7,700kg	7,750kg	7,800kg	7,850kg
実績値	(R1年)	7,337kg	7,057kg	-	-
直近の達成度		： 遅れ・未達成			

### 【令和5年度のこれまでの取り組み】

- 乳用牛のベストパフォーマンス実現への支援
  - ・牛群検定実施((公社)山形県畜産協会及び県内酪農家)への支援(4月～3月)
  - ・乳用牛改良推進会議の開催(7/31)
  - ・山形県ホルスタイン共進会の開催支援(9/7～8)
  - ・プレミアム受精卵産子及び畜産研究所で飼養しているゲノミック評価値の高い雌牛から卵子を採取し、体外受精卵を作製・配布(46個)
- 県産牛乳等の消費拡大
  - ・山形県牛乳普及協会と連携した県産牛乳の消費拡大PR  
高校生への山形駅構内、赤湯駅での牛乳配布(6/1、9/1)



### 【評価と課題】

- 高能力雌牛から採取した卵子で体外受精卵を作製し、県内酪農家にプレミアム受精卵として配布した結果、これまで9頭の雌子牛が誕生した。ゲノミック評価値が高く、それぞれの酪農経営における牛群の改良が期待される。
- 酪農家の、飼料・資材高騰等による経営への先行き不安感、コロナ禍での交流減退による孤立感を低減する取り組みが必要。

### 【今後の取り組み】

- <令和5年度>
  - 乳用牛ベストパフォーマンス実現セミナーの開催予定(11/30～12/1)
    - ・講演「ゲノム情報を活用した優良後継牛確保と儲かる経営」  
エリートジェネティクス㈱ ゼネラルマネージャー 山岸黄太 氏  
情報提供「プレミアム受精卵産子のOPUで遺伝的優良牛増産へ」  
畜産研究所 飼養管理部 職員
  - ・現地勉強会 新庄市の酪農経営 牛舎にて
- <令和6年度の方向性>
  - 牛群検定実施への支援
  - 山形県ホルスタイン共進会の開催支援
  - ゲノミック評価値の高い雌牛由来の体外受精卵作製・配布による牛群改良の推進
  - 乳業牛ベストパフォーマンス実現セミナー  
酪農家の農場を会場として、飼養管理技術に関する研修を複数回開催することで、技術向上とともに、県内酪農家間の横のつながりを強化



## 【基本戦略3 魅力ある稼げる農林水産業の追求】 10 6次産業化 ～豊かな農林水産物と魅力ある地域資源を活かした

農林水産業を起点とした新たな付加価値の創出～

### 販売チャネルの多角化による需要開拓・販路拡大プロジェクト(PJ40)

#### 【プロジェクト目標】

目標指標	6次産業化に取り組む事業者のEC参入率				
	現状値	R3	R4	R5	R6
指標値	21.3%	28%	32%	36%	40%
実績値	(R1年)	27.9%	31.7%	-	-
直近の達成度		概ね達成			

#### 【令和5年度のこれまでの取り組み】

- 農林漁業者等、産地直売所のECモール出店に対する経費を補助
- 首都圏で開催された大手卸売業者の展示商談会において県内食品製造業者の出展を支援(7/12～13、県内事業者4社参加)
- 全国に展開する小売業者における県産農産物を用いたプライベートブランド商品開発支援のため、農林漁業者を対象とした商談会を実施(5/29～31、県内事業者18社参加)
- 隣県で開催された卸売業者の展示商談会において県内食品製造業者等の出展を支援(8/1、県内事業者2社参加)
- 県内で開催された卸売業者の展示商談会において県内食品製造業者等の出展を支援(8/3、県内事業者1社参加)
- 隣県の百貨店で「やまがたフェア」を開催(10/3、県内事業者2社参加)
- 商談会参加希望者を対象に、隣県のバイヤーを講師に招き、商談会セミナーを開催(10/17、県内事業者8社参加)
- コーディネーター、6次産業化支援チームによるフォローアップ、新たなマッチングの継続(随時)
- 首都圏等のバイヤーを招へいし、おいしい山形・食材王国みやぎビジネス商談会を開催(10/24、県内納入事業者39社参加)
- 山形のうまいもの「ファインフードコンテスト」の一般試食会及び表彰式を開催(9/9)、受賞商品のPR販売(アンテナショップやECサイトを活用)

#### 【評価と課題】

- ライフスタイルの多様化や購買行動の変化に対応し、県産農林水産物等の販路を拡大するため、農林漁業者等によるEC等の活用を継続して支援していく必要がある。
- 県産農林水産物のさらなる利用拡大に向け、ビジネスの発展段階に応じた商談機会の創出や、県産農林水産物を使用した加工食品等の販路開拓・拡大の取組みに対する支援を継続する必要がある。

#### 【今後の取組み】

<令和5年度>

- 遠隔地等の仕入れ事業者との商談機会を提供するオンライン商談会(1月～2月)を開催するとともに、商談率・成約率の向上を図るため試食展示会(1月～2月)を開催する。
- 首都圏や隣県の卸売業・小売業のバイヤーを招へいし、個別商談会を開催予定。(首都圏1回、隣県2回)
- スーパーマーケットトレードショーに県ブースを設置し、県内食品製造業者の出展を支援。(2/14～16、県内事業者20社参加予定)

<令和6年度の方向性>

- ライフスタイルの多様化や購買行動の変化に対応するため、EC等による県産農林水産物等の販路拡大に対し、継続して支援する。
- 県内の農林漁業者等を対象に、商品力や販売力向上のための研修会を開催するとともに、県内・隣県の卸売業・小売業と県内事業者とのマッチング商談を実施。



第57回スーパーマーケット  
トレードショー2023 (2/14～16)



令和4年度国分東北株式会社  
との個別商談会 (11/11)

【基本戦略3 魅力ある稼げる農林水産業の追求】 11 流通販売・輸出促進 ～優れた農林水産物の認知度向上に向けた

「山形ブランド」の確立・定着と市場の特性に応じた販路・輸出拡大～

県産農産物等輸出拡大プロジェクト(PJ49)

【プロジェクト目標】

目標指標	： 県産農産物輸出額				
	現状値	R3	R4	R5	R6
指標値	828百万円 (R1年度)	1,200 百万円	1,300 百万円	1,400 百万円	1,500 百万円
実績値		867 百万円	1,051 百万円	-	-
直近の達成度		： 概ね達成			

【令和5年度のこれまでの取組み】

- 「やまがた紅王」の海外での認知度向上に向け、台湾(台北市)において輸出事業者等を招待し、さくらんぼプロモーションを実施(5/30)
- 台湾、香港及びASEAN等の高級スーパー等における県産農産物(果実、米、牛肉等)の販売プロモーションの実施(6月～)
- オーストラリアにおける業務市場開拓に向けたレストランでの「山形牛」プロモーションの実施(6月～7月)
- グローバル産地形成支援事業費補助金により、海外ニーズやロットの確保、輸出先国の求める農薬規制・衛生管理等に対応した生産体制構築に係る産地の取組みを支援(随時)
- 山形県農産物等輸出促進事業費補助金による、JAや農業法人等の輸出の取組みに対する支援の実施(随時)
- SNSを活用した海外向け情報発信(随時)



さくらんぼプロモーション(台湾台北市)

【評価と課題】

- 新型コロナウイルスの影響で停滞していた経済活動の回復や、県内の輸出向け供給体制の整備が進んだことなどを背景に、令和4年度の県産農産物の輸血量・輸出金額は過去最高となった。
- 今後、他県産との産地間競争の激化が見込まれるため、現地輸出パートナーとの関係強化のもと、積極的な現地プロモーションを展開し、山形ブランドの定着や販路の維持・拡大に取り組む必要がある。

【今後の取組み】

<令和5年度>

- 台湾、香港及びASEAN等の高級スーパー等における県産農産物(秋果実など)の販売プロモーションの実施(随時)
- バイヤー招聘、現地商談会・見本市等への出展(随時)
- アクションプランを活用した県産農産物輸出セミナーの開催
- 米国(カリフォルニア州)レストランでの山形牛及び県産米プロモーションの実施
- 米国(ハワイ州)での県産米プロモーションの実施

<令和6年度の方向性>

- 台湾、香港及びASEAN等の高級スーパー等における県産農産物の現地販売プロモーションの展開
- 小売中心の販路に加え、外食需要の回復に対応した県産米や牛肉等の業務用販路の開拓・拡大に向けたプロモーションの展開

【基本戦略4 「やまがた森林ノミクス」の加速化】 15 「しあわせウッド運動」の展開や都市との交流等の促進、

山形の山菜・きのこのブランド力向上～

## 県産木材利用推進プロジェクト(PJ57)

### 【プロジェクト目標】

目標指標 : 民間施設の木造化率					
	現状値	R3	R4	R5	R6
指標値	37%	40%	43%	46%	50%
実績値	(R1年度)	39.2%	35.3%	-	-
直近の達成度 : 遅れ・未達成					

目標指標 : 木質バイオマス供給量					
	現状値	R3	R4	R5	R6
指標値	202千t	227千t	240千t	252千t	265千t
実績値	(R1年)	182千t	179千t		
直近の達成度 : 遅れ・未達成					

### 【令和5年度のこれまでの取組み】

- 公共・民間施設の木造化・木質化等の推進
  - ・県産木材を利用した住宅(150棟)、非住宅民間施設(6棟)に支援(10月末)
- 県産木材を活用する「しあわせウッド運動」の推進
  - ・県内大型商業施設において県産木製日用品展示会を開催(出展事業者8社、9月16～17日)
- 都市との交流促進等による県産木材製品の県外への販路拡大
  - ・首都圏で開催された県産木材製品のPRイベント出展への支援(8月)
- 木質バイオマスの利用促進
  - ・県内で生育している早生樹(ヤナギ類、ニセアカシア、ユリノキ)の生産手法の実証
  - ・木質バイオマス施設用の低質材(C・D材)の搬出経費に対する支援

### 【評価と課題】

- 新築住宅着工戸数が減少する中、県産木材を利用した住宅や非住宅民間施設への支援は、県産木材の利用拡大につながる良い動機付けとなっている
- 非住宅民間施設での県産木材のさらなる利用促進が必要
- 県民が木と接する機会を創出し、日常生活の中で県産木材製品の利用を拡大することが必要
- 需要が増加している木質バイオマス発電施設への安定的な燃料(低質材)供給が必要

### 【今後の取組み】

<令和5年度>

- 建築士会と連携し、中大規模木造建築物を設計できる技術者(やまがた木造設計マイスター)を養成(R5.11月～R6.3月まで6回開催予定)
- 首都圏で開催する県産木材製品のPRイベント出展への支援(12月、1月)

<令和6年度の方向性>

- 県産木材の利用を拡大するため、民間施設の木造化支援等を強化するとともに、しあわせウッド運動や県産木材製品の首都圏でのPRを推進
- スギ低質材の搬出支援の継続実施と、早生樹(ヤナギ類、ニセアカシア、ユリノキ)による新たな木質バイオマス資源の利用を推進

### 首都圏でのPR



【基本戦略5 水産業の成長産業化】 18 県産水産物の利用拡大 ～「新しい生活様式」に対応した付加価値の向上に向けたバリューチェーンの形成による県産水産物の消費拡大～

## 県産水産物の利用拡大プロジェクト(PJ62)

### 【プロジェクト目標】

目標指標	県産水産物の県内陸部における流通割合 (市場流通量)				
	現状値	R3	R4	R5	R6
指標値	6.3%	8.0%	9.0%	10.0%	11.0%
実績値	(R1年)	5.2%	6.0%	-	-
直近の達成度 : 遅れ・未達成					

### 【令和5年度のこれまでの取組み】

#### ○県産水産物の認知度向上

- ・5/15～6/30県内量販店6社による旬の魚キャンペーンを実施
- ・10/2～11/19県内量販店6社による旬の魚キャンペーンを実施
- ・10/2～11/30県内飲食店等(94店舗)による「やまがた庄内浜の魚応援店スタンプラリー」を実施
- ・「庄内浜の魚消費拡大総合プロジェクト」による県内陸部における認知度向上策について結果を検証
- ・「庄内浜文化伝道師」による伝道師講座や料理教室の開催等を通じた認知度向上と魚食普及活動の推進
- ・庄内浜の魚まつりin山形(10/9)

#### ○県産水産物の付加価値向上・販売力向上

- ・おいしい魚加工支援ラボを活用した商品開発や、低利用魚・未利用魚を使用した加工品の開発(ゲンゲ類の魚醬、ハツメ魚粉の試作)

#### ○県産水産物の消費拡大

- ・SNS(フェイスブック、Instagram)による旬の魚のPR
- ・国内外からの観光需要に対応した観光分野との連携による消費拡大キャンペーン
- ・庄内地区の飲食店等での「庄内北前ガニ」、「庄内おぼこサワラ」、「天然とらふぐ」の各種キャンペーン実施(10/2～翌年3/17)

### 【評価と課題】

○「旬の魚キャンペーン」などの継続実施により、認知度の向上は図られているが、今後は、若い世代にも応援店に行ってもらえる機会をつくることも視野にいれ、水産物のバリューチェーン形成と消費拡大を図ることが必要

### 【今後の取組み】

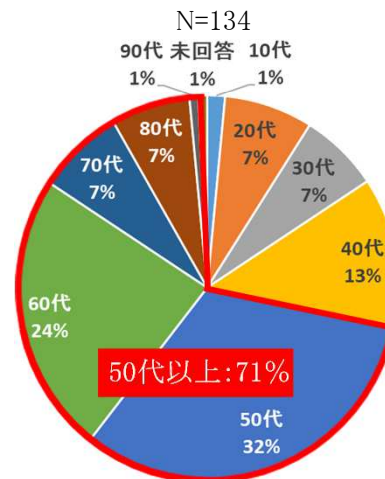
<令和5年度>

- 「寒鱈まつり in 山形」を実施(2月中旬)

<令和6年度の方向性>

- やまがた庄内浜の魚応援店スタンプラリーを「応援店インスタ投稿キャンペーン」に切り替え、若い世代から応援店を知ってもらい、行ってもらえる機会を創出
- 引き続きキャンペーンは実施

#### R4年度スタンプラリー応募者



#### インスタ投稿キャンペーン

→手軽にキャンペーンに参加できる機会の創出



#庄内浜の魚

#### 多様な写真の投稿

→若い世代が応援店を知る機会の創出



若い世代が応援店に興味を持ち、行ってもらえることで庄内浜の魚の消費拡大